

令和4年度第1学期始業式式辞（放送）

おはようございます。令和4年度のスタートです。穎明館生の皆さん、春休みの間にしっかりと整えましたか。断捨離しましたか。まずは新4年生、第38期生の皆さん、穎明館高等学校への進学、おめでとうございます。高校生として高い進路目標を持って、充実した毎日を送ることを願っています。昨日は入学式が行われ、穎明館第41期生として新たに189名の中学新入生を迎えました。入学式の式辞では「出会い」について話しました。昭和の教育哲学者、森信三先生曰く、「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える、しかも一瞬早すぎず一瞬遅すぎない時に」。この言葉通りに、人と人とは絶妙のタイミングで出逢います。人生において期せずして出逢うことを「邂逅」と呼びます。人と人との「邂逅」は、人智を超えた奇跡のようなものです。新年度、新学期、新学年、新クラス——新しい環境の中での奇跡のような出逢いに期待しましょう。その出逢いに喜び、感謝する気持ちで学校生活を送ってください。

さて、穎明館生への今年度最初のメッセージですが、その「出逢い」との関連から、あえて「感染」について伝えようと思います。「感染」というと怖いイメージですが、これから話す「感染」は、感染症の「感染」ではなく、学ぶ動機としての「感染動機」のことです。社会学者の宮台真司先生が、『14歳からの社会学』という著書で、次のように述べています。

ぼくたちがものを学ぼうとするときに、どういう理由があるだろう。まず1つ目に挙げられるのが「競争動機」（勝つ喜び）。周りの子とテストの点数を競い合うとか、人よりも高い偏差値の学校に合格したいと思って受験勉強するのは、この「競争動機」による。

2つ目に挙げられるのが「理解動機」（わかる喜び）。「自分の力で問題が解けた」とか「自分の考えをうまく説明できた」と感じる喜びだ。戦後の日本の教育は「競争動機」「理解動機」に集中して議論がなされてきた。だが、実はもう1つ大切な動機がある。

それが「自分もこういうスゴイ人になってみたい」と思う「感染動機」だ。直感で「スゴイ」と思う人がいて、その人のそばに行くと「感染」してしまい、身ぶりや手ぶりやしゃべり方までまねしてしまう——そうやって学んだことが一番身になるとぼくは思う。いまは、小説にしても映画にしても「わかる」ものばかりが世の中に受け入れられる。「よくわからないけどスゴイ」という感じ方がすたれてしまっている。だからこそ、若い君には「スゴイ」と直感して乗り移られるものの学び方を紹介しておきたいと思う。

穎明館生の皆さん、皆さんは、「自分もこういうスゴイ人になってみたい」——そんな人に出逢いましたか。刺激を受けていますか。憧れていますか。真似をするぐらいに染まっていますか。自分自身の可能性を引き出してくれる、知的にリードしてくれる、そういう人に出逢えて、影響を受けているのならば、常に充実した時間を過ごせているはずですね。学びについていえば、自分の内側から学ぶ、内発的に学ぶことができていることになります。

思い起こせば私も高校時代、とある先輩に感染しました。その先輩の家に行って、本に埋まった部屋、作家の書斎のような部屋に通されて、大人だなあと憧れたことを思い出します。真似をして古本を買い集め、自分の部屋に積み上げ、悦に入っていたことは青春の日の少し恥ずかしい思い出です。月日は経ち、教育という人の成長に関わる仕事に就いて、スゴイ人ではなくても、きっかけを与えられる人にはなれたらどうか、などと自問自答をしています。

穎明館生の皆さん、「感染動機」すなわち内発的な学びのために、今年の夏休みの前にした話を繰り返しておきます。「本を読もう。新しい出逢いを求めて行動しよう。そのときは一冊の本、小さな出逢いかもしれない。それでも若い時に読んだ一冊の本や人との出逢いは、あとから振り返ると、かけがえのない輝きを放っている場合もある。それは後から気付く。皆さんの人生がそれぞれいい味を出していくためには、本との出逢い、人との出逢いが必要だ。本を読もう。行動しよう」。

式辞の結びは、創立者堀越克明先生の定めた校訓とモットーです。

新6年生、36期生の皆さん、いよいよ受験学年になりました。皆さんが受験生として黙々と頑張る姿勢は、きっと穎明館全体に「感染」していくはずです。進学校穎明館では受験生こそがリーダーです。継続は力なり——可能性に挑戦する1年にしましょう。

穎明館生の皆さん、今年度も校訓、モットーを胸に、常に目標、意識を高くもって努力してください。

【校訓】

「 人生は何ごとに依らず その目標は高く設定すべきである
その推進には 高い知性と理性を必要とする 」

【モットー】

「 仁智は無窮 穎才を研きよき地球人たれ 」

以上、令和4年度穎明館中学高等学校第1学期始業式の式辞といたします。